

2017年4月23日

福音書からのメッセージ

イエスは重ねて言われた。「あなたがたに平和があるように。父がわたしをお遣わしになったように、わたしもあなたがたを遣わす。」

(ヨハネによる福音書 20章 21節)

先週は復活日でした。その日に読まれた箇所には、空の墓を見たマグダラのマリアと弟子たちの姿がありました。聖書はそのあと、マグダラのマリアが墓の前で復活のイエス様と出会った場面を描きます。そしてマグダラのマリアは弟子たちに、「わたしは主を見ました」と伝えました。

今日の箇所の前半は、弟子たちがその知らせを聞いた日曜日の出来事です。でもその場は、喜びであふれているようには思えません。それどころか、弟子たちは家の戸に鍵をかけ、ブルブルと震えていました。イエス様と一緒に行動していた自分たちにも、危険が迫っていると感じていたのでしょうか。またイエス様が墓からいなくなった原因を自分たちに押し付けられ、とんでもない目にあわされるかもという思いもあったかもしれません。イエス様が復活なさったという出来事は、弟子たちにとって自分たちとは関係のないことのように感じているようです。

そこにイエス様は来られます。イエス様はご自分の復活とは一体何なのか、彼らに伝えるのです。イエス様は弟子たちの真ん中に立ち、「あなたがたに平和があるように」と告げます。平和というと、戦争のない状態だと感じてしまうかもしれません。しかし正確には、「あなたがたに平安あれ」ということです。この言葉を言うために、イエス様は彼らの真ん中に立ったわけです。

心騒ぎ、目の前が真っ暗になり、何も信用できない。誰もそばにいてくれない。恐



くて仕方がない。わたしたちにも、何度だって経験のあることです。どうしてこんな目に合うのか。前に進むうにも進めない。うずくまって泣いてばかり。その姿は 2000 年前から今に至るまで、何度も何度も繰り返されてきたわたしたちの姿です。イエス様は十字架で息を

引き取られ、墓に葬られ、そして三日後に復活されました。なぜ復活しなければならなかったのか。それはわたしたちに「平安」を与えるためです。イエス様が与える平安、それはイエス様が共にいてくださる、絶対に見捨てない、必ず守ってくださるということなのです。

だからわたしたちは心を騒がせなくていいのです。その伸ばされた腕にしっかりとしがみつけばいい、暖かい胸の中に飛び込んで行けばいい。それがイエス様の復活の意味です。イエス様が与えてくださる約束なのです。

この物語は、今も続いています。心落ち着かず、嫌な思い、苦しい気持ち、今にも叫びだしたくなるようなこともあると思います。しかしイエス様は今日も、心に鍵をかけ、震えている人のところに来てくださいます。あなたの心の中にも平安をもたらし、いつもそばにいてくださることを伝えるために。

桃山基督教会

〒612-8039

京都市伏見区御香宮門前町 184

TEL/Fax 075-611-2790

メール momoyama.kyoto@nssk.org

<教会ホームページ>

<http://momoyama.hannari.com/>